

コリント信徒への手紙(一) 15章58節

「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、**主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。**」

【要旨】

ミニストリーという言葉に、まだ違和感を感じますか？今年度から執事職のひとつとなり、毎月「ミニストリー広場」を発行、言葉の意味を具体的な教会活動と関連させて解説して来ましたが、まだ馴染めてないかも知れません。適当な日本語名が見つかりませんが、主に仕える業（行為）のことです。牧師、執事だけでなく、教会員の礼拝出席、礼拝奉仕、福音伝道・伴走、教会学校の学び・福音の共有、食事・掃除当番などです。仙川教会のミニストリーを「広場11月号」に図示しました。つまり、主から教会に託されている業に参加して、生きたキリストの体なる教会の歩みを支えるすべての行為です。今マレーシアに行っている牧師、兄弟の働きと交流も、祈って送り出している私たちも主のミニストリーを担っています。

大事なことは、ばらばらの活動の寄せ集めではなく、ミニストリーに参加する者が互いにつながり、支え合い、祈り合う関係の中で進められることです。キリストの体の部分として託された役目を担い、連携することが大切です。そうすることで、主にある喜びも悩みも課題も共有する主イエスキリストの体（ONE BODY）が組み立てられ、主の業に励む教会として成長して行くでしょう。与えられているタラントを主に捧げる歩みの中でこそ成長し輝く、とも言えます。私たちが義務感からでなく主においてタラント（賜物）を活かすならば、労苦は決して無駄になりません。それどころか復活された主イエスの体に繋がっている（救い）の確信と平和の実を結ぶことができる（福音に預かる）、とパウロはコリントの教会に言っています。

仙川教会の主はイエスキリストです。この一点から外れなければ、教会に、集う一人一人に主から御霊の実が与えられると信じます。この信仰に生きるならば、すべての行いがミニストリーとなります。そして、ミニストリーが霊の糧となり、生きる力となり、喜びとなる。これが聖書の告げる福音です。

コリント信徒への手紙(一) 15章 58節

「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、**主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。**」

【主文】

はじめに (報告・感謝・祈り) : 今マレーシアに行っている山岸 明牧師と他の兄姉のために祈る。

昨日のチャリティーコンサートとマディン牧師が牧会されているパパール聖公会での礼拝出席 / 山岸牧師のメッセージと交わりのために。

留守礼拝に皆さんが出席され、ご一緒に礼拝できることを感謝。礼拝メッセージ奉仕のためにご加禱いただき感謝。

今日はアドベント第1週 : 先週、内外のクリスマスの飾り付けが皆の協力で行われた。**感謝!**
先週は、安部ひかりさんのバプテスマが豊かに祝福され、皆で喜びと感謝を分かち合えた。
(写真) クリスマスツリー、バプテスマ式と祝会

導入

→はじめに報告させて頂いた出来事が、すべてが教会のミニストリーです。

ミニストリーという言葉にまだ違和感をお持ちの方? (遠慮なく挙手を)

私は、今年度から6人目の執事・ミニストリー執事としてなり、毎月「ミニストリー広場」を発行しています。ほとんど毎号で「ミニストリーと何か? その意味について具体的な教会活動と関連させて解説して来ましたが、まだ馴染めてないかも知れません。適当な日本語名があれば良いのですが・・・

ずばり、**ミニストリーとは「主に仕える業(行為)」**のことです。

工藤篤子さんという音楽による巡回伝道師が、「工藤篤子ワーシップ ミニストリーズ」というニュースレターを度々送って来られます(画像)。以前、仙川教会でもコンサートを行って下さったことがあります。イエスキリストの福音伝道に献身されているわけですから、ミニストリーの名に最も相応しい働きの例と言えるでしょう。

ところで、教会以外でもミニストリーという言葉が使われているのをご存知ですか?

MEXT とは? 通称・文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)。文部科学大臣 (文科相) Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology
首相は Prime minister。

辞書では、minister: 大臣、公使、牧師、司祭、神父、教役者、**奉仕者**
minister は重要な地位と任務を担っている人 (政治、宗教的に)、
しかし、**本来は、人の世話をする人 (仕える人)** という意味。

イエスの言葉 「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。」
(マタイ 20: 26)を思い出させますね。現実には

メッセージ

① 仙川教会が今皆で担っているミニストリー Mは何でしょうか？(図示)
いつも行っている事ばかりです。

4つの方向(基本)に向かう M働きがある。

状況、時代によって変わらない

1つは、主に向かってなされる M働き

2つ目は、主との内的な交わり

3つ目は、教会内での M 聖書の学びと牧会

4つ目は、教会の外に向けての伝道・奉仕・支援

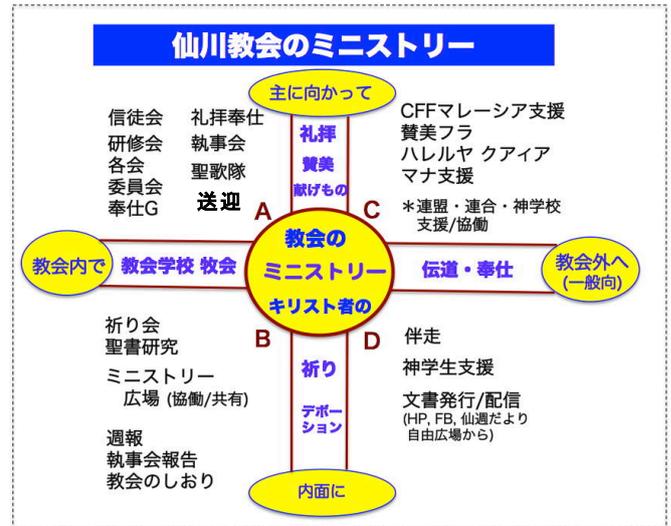
4つの面(具体的な活動 ABCD) を実行中 M

(年毎に活動計画と予算を総会で決める)

(状況に応じて実行方法、奉仕者が変わる)

ることがある。新たに加わったり、

変更/停止することもある)



New: ハレルヤ クワイア、神学生支援

② 大事なことは、ばらばらの活動の寄せ集めではなく、ミニストリーに参加する人が互いにつながり、支え合い、労り合い、祈り合う関係の中で進められることです。キリストの体の部分として託された役目を担い、連携している教会が生きた教会だからです。聖書が分かり易く教えてください。コリント(一) 12: 21-22, 26-27

「教会はキリストのからだである」(エペソ 1章 23節)

「目が手に向かって、「私はあなたを要らない。」とは言えず、また、頭が足に向かって、「私はあなたを要らない。」とも言えません。それどころか、体の中で他よりも弱く見える部分が、かえって必要なのです」(コリント(一) 12章 21-22節)

「一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、一人一人はその部分です。」(同 26-27節)

人体：血管 (体内を巡り、栄養と酸素/老廃物と二酸化炭素を運搬)
臓器 (それぞれ異なる機能を担い、協働して命を支えている)

臓器

<http://www.aiwoon.com/original11.html>
http://www.kirin.co.jp/csv/arp/health/lifestyle_disease.html

この御言葉をいつも心にとめて教会生活を送りたいですね。そのような信仰に生きているならば、主にある喜びも悩みも課題も共有する生きたキリストの体 (ONE BODY) となるでしょう。キリストの体を構成する部分の間には愛と祈りという血液が行き巡ります。

人間の体と同じです。

動物(人)を生かす体内の水循環

水は毛細血管を通じ、体内の隅々にまで酸素と栄養物を運ぶ。

帰路では、老廃物を腎臓に運ぶ。ろ過した血液は心臓(ポンプ)に戻り、再び体内を循環する。

人は一日約2.5Lの水を摂取、同量の水を排泄。

体内ではその100倍量の水がリサイクル。腎臓は水再生/廃棄物除去装置。

体のどの臓器も生体内の活動を支える重要な働き（機能）を担っています。それぞれ生きるために必要不可欠な存在で、必要な栄養源と酸素が体内を巡る（毛細）血管によって供給されている。しかも、各臓器は、脳・神経組織からの指令と管理によって相互に連携し、支え合う仕組みとなっている。このような生きた有機体（相互につながっている組織体）が、私たちの人体なのです。最近の医学研究では、臓器同士のメッセージのやりとりが、私たちの体を支える力ギとなっていることがわかってきています（NHK 山中伸也博士）。

なお、体の2/3を占める水は、生命維持に不可欠です。その理由は、先ず全ての臓器、細胞を潤し、生命機能を支えている事、また、血液は体内の末端にまで生命に必要な物質を運搬する役割を担い、帰路では老廃物を腎臓に運び、ろ過した後、再び心臓に戻って新鮮な酸素を取り込み、動脈へと移動して行く、というふうに常に体内を循環しています。

肉体の体が命を維持する仕組みと同じように（それ以上に）、個々の人間、教会のようなコミュニティが生き生きと活動し、成長するためには何が大切かを考えさせられます。

パウロがその秘訣／福音を伝えているのが、コリント(一)12章であり、ローマ12章です。その要点は、上に述べましたが、人体の仕組みと対比させて整理しますと、

- ・[人体]各部分（臓器・器官）の存在が大事：[教会]一人一人が神に愛されている存在である。
- ・[人体]各部分は異なる機能を持っているが、血管と神経でつながっており、連携して命を支えている：[教会]主において一人一人がつながっている事を信じ、愛し合い、互いに支え合い協働することでキリストの体なる教会を形成している。
- ・[人体]部分全体が組み立てられ機能を発揮することで一つの体（人間）をつくり、成長して行く：[教会/人間]一人一人が与えられたタラントを進んで主に捧げる中で霊の実を結び、人間的に輝き成長して行く。

これがキリストの福音。福音を信じる者、教会への約束です。

ミニストリーとは、タラント（賜物）を主において、主のために、隣人のために活かすことに他なりません。パウロは、今日の聖句で、コリントの教会にその労苦は決して無駄にならない。それは、私たちは復活された主イエスの体に結ばれているからである、と言っています。キリストが私の罪の赦し神との関係を回復させて下さったと信じ、救われたという確信があるかどうかをパウロは問うています。その信仰があるならば、労苦が労苦に終わらず、永遠の命を頂いて復活する望みとなり生き抜く力となると告げているのです。

実は、先週このメッセージの準備をしていた時、ヘンリー・ナウエンの「今日のパン、明日への糧」を読んでいたら、偶然かどうか分かりませんが、今回選んだ聖句についての解説に出遭いました。共有→

霊の体

11/30

人生、

種を蒔く時

11/29

復活の時、私たちに霊の体が与えられます。私たちの自然の体はアダムから出たものであり、霊の体はキリストから来ます。キリストは第二のアダムで、私たちに滅びることのない新しい体を与えてくださいます。パウロが言うように、「わたしは、土から出来たその人の似姿となつていくように、天に属するその人の似姿にもなるのです」（1コリント15・49）。

私たちの霊の体は、キリストに似た体です。イエスは、死すべき体を持つものとして生きるいのちを、私たちに分かち合うために来られました。それはまた、ご自分の霊の体に私たちが共に属することが出来るようになるためでした。パウロは言っています。「肉と血は神の国を受け継ぐことはでき」（1コリント15・50）ないと。イエスは、私たちの朽ちるべきものに朽ちないものを着せ、私たちの死ぬべきものに死なないものを着せるために来られました（1コリント15・53参照）。このように、私たちの霊的ないのちが完全に明らかにされるのは、まさに体においてなのです。

を無条件に愛してください。ですから神は、み子であり私たちの救い主であるイエスが私たちの前に人としての姿を現されたのと同じ私たちの体が、最終的に破壊され、なくなってしまうのを許されるはずがありません。

そうではなく、地上での生は、復活の体の種が蒔かれる時です。パウロが言っています。「蒔かれる時は朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれる時は卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれる時には弱いものでも、力強いものに復活するのです。自然のいのちの体があるのですから、霊の体もあるわけです」（1コリント15・42-44）。私たちが体において生きることの中には、何一つ無駄になることはないというこのすばらしい真理を知ること、あらゆる瞬間を永遠に向けての種として生きるようにと招かれています。

神は永遠に私たち

私はこれまで、主にある労苦（働き＝ミニストリー）は、生きたキリストの体を証しする尊い業であり、タラントを捧げて参加する者は、主につながるだけでなく、互いにつながり支え合う関係に入るので、孤独から解放され、人間的に、また靈的に成長するとお話してきました。しかし、パウロはもっと深く高い視野からミニストリーの意味を説いています。つまり、労苦が無駄にならないワケは、復活の時に私たちにはキリストから靈の体が与えられ、永遠に生きるものとされるからだと言うのです。地上での生は、復活の体の種が蒔かれる時であり、永遠に向けて備えであるとも言っています。

パウロは、終末が近いと信じていたのでこのようなメッセージをコリント教会に送ったと考えられます。ここは終末論を展開する時ではないと思いますので、今日はこれ以上深入りしませんが、大事なポイントは、聖書は終末は必ず来ると予告している事、人間には終末の時を知ることが許されていないという事です。ではどうすれば良いのか？明日終末が来たとしても、慌てることのない生き方を今日しなさい、という信仰の勧めが正しい終末の捉え方だと考えます。言い換えるならば、永遠の生とは今と今からの生き方と捉えるのが正しい聖書理解だと私は信じています。

まとめ

- ・ミニストリーは主イエスの十字架によって救われた者が、主のために、隣人のために、主の救いを必要としている人のために行うすべての業で、業の違いによる優劣はない。
- ・どんな業も主の体を支え、生かすことにつながり、主から与えられた命（永遠の命）と恵みを分かち合うことに意味がある。
- ・ミニストリーに進んで参加する人には靈の糧が与えられ、それが生きる力となり、喜びとなる。ミニストリーに励む教会は、御国につながる永遠の命と祝福に預かることができる。これが聖書の告げる福音信仰です。

これからも福音信仰によって結ばれる教会として歩んで行きましょう！

祈り